



宇宙をひもとく惑星科学の最前線

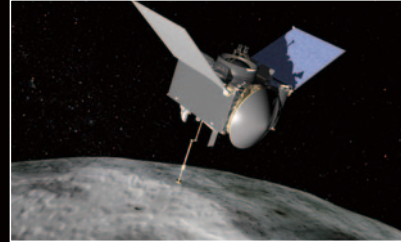
～世界をリードする惑星探査の第一人者が高校生のために日本初講演～



Dante Lauretta (ダンテ・ローレッタ氏)

NASA小惑星探査機「オサイリス・レックス」主任研究員

アリゾナ大学 月惑星研究所 惑星科学及び宇宙化学 教授
アリゾナ大学で数学、物理学、東洋学(日本語)を専攻し1993年に卒業後、ワシントン学(セントルイス)にて地球惑星科学専攻の博士号を1997年に取得。アリゾナ州立大学での研究員を経て、2001年からアリゾナ大学月惑星研究所に着任。2002年、国際隕石学会ニア賞を受賞。2008年、米国科学アカデミーのカブリ・フェローに選ばれる。2010年には、2002-2003 Antarctic Search for Meteoritesのメンバーとしての功績が認められ、Antarctica Service Medal of the United States of America を受賞。専門は月試料、隕石や彗星の粒子などの宇宙物質の分析。小惑星5819 Lauretta は、ローレッタ教授の惑星科学分野での業績を称えて命名された。



OSIRIS-RExはアメリカ航空宇宙局ゴダード宇宙飛行センター(NASA/GSFC)がアリゾナ大学月惑星研究所などと共同開発している宇宙探査機で、サンプルを採取し、地球への帰還を目的としたプロジェクトである。「アメリカ版はやぶさ」と呼ばれることもある。現在は2016年9月に打ち上げが成功した。惑星到達は2018年、地球への帰還は2023年を予定している。



ハワイ大学などの研究チームが2017年10月19日に発見した観測史上初めての恒星間天体。その名はハワイの言葉で「遠い過去からたどり着いた使者」というような意味を持つ「オウムアムア」が命名され、宇宙船の飛来?と全世界を驚かせた。その後の研究結果でその形状は長さか幅の10倍もあるような細長い葉巻のような形であろうということも明らかになった。このような特異な形状の天体が観測されたのも初めてだという。オウムアムアは現在、猛スピードで太陽から遠ざかっており、来年5月には木星軌道を、2019年には土星軌道を超えて、そのまま太陽系を離脱していくとみられている。

Karen Meech (カレン・ミーチ氏)

「太陽系外から飛来した謎の天体オウムアムア」発見者

ハワイ大学 天文学科 教授
ライス大学(ヒューストン)で宇宙物理学を専攻し1981年に卒業。マサチューセッツ工科大学にて、惑星科学専攻の博士号を1987年に取得後、ハワイ大学天文学科に着任。アメリカ天文学会コレイ賞を受賞。2006年、米国科学アカデミーのカブリ・フェローに選出される。専門は、彗星のガスや氷及び小惑星の観測。NASAの彗星探査計画(Deep Impact, EPOXI and Stardust-NeXT)の共同研究者でもある。小惑星4367 Meechは、ミーチ教授の天文学分野での業績を称えて命名された。



要 項

日時 2018年 **2月25(日)** 13:30~15:30
場所 千葉工業大学 東京スカイツリータウン®キャンパス 3Dシアタールーム
〒131-0045 東京都墨田区押上一丁目1番2号 東京スカイツリータウン®ソラマチ8F
主催 千葉工業大学 惑星探査研究センター

プログラム

- ① 国内外の惑星科学や探査の最新事情を紹介
- ② ダンテ・ローレッタ氏、カレン・ミーチ氏による特別講演
- ③ 惑星探査研究センターの活動・取り組み紹介

注:②特別講演のみすべて英語での講演となります。
①③は、惑星探査研究センター 主席研究員 荒井朋子による進行となります。

事前予約制

応募フォームより、ご予約お願い致します。定員50名
応募締切:2018年2月23日(金) 17:00 <https://req.qubo.jp/cit/form/percseminer>
注:高校生対象ではございますが、高校教諭の方も歓迎いたします。

申込QRコード

